

特集

眼内レンズ度数計算の最新情報

序 論

雑賀司珠也*

白内障手術後の屈折矯正は患者・医師双方のより優れた術後視機能の要求と眼内レンズ（以下 IOL）の光学面での進歩の両面から、眼科臨床のなかでも極めて重要かつデリケートな案件になったように感じます。

30 年以上前の球面単焦点 IOL の IOL 屈折度数計算から今日の 2 焦点あるいは 3 焦点 IOL や焦点深度拡張型 IOL に至るまでの屈折度数計算式の改良の歴史は決して平坦なものではありませんでした。その間、角膜屈折矯正手術が登場し、この手術の既往のある症例での IOL 度数計算の特殊性が議論されました。また、かつて禁忌とされ

た小児の白内障手術後の眼球発育と近視化を考慮した IOL 度数決定も極めて重要な課題です。IOL 屈折度数計算と術後の見え方に関する知識は、白内障手術を執刀する眼科医のみならず、日々の眼科外来診療の中で役立つものと考えています。

今回の特集を通じて、IOL 屈折度数計算式の発展の歴史から最先端の付加価値 IOL での度数計算、さらには眼科医療が人工知能時代に突入する入り口に差し掛かった今、この分野で我々眼科医が何を考えることが求められているか、について読者の皆様と一緒に勉強できることを楽しみにしています。

*Shizuya SAIKA 和歌山県立医科大学眼科学講座